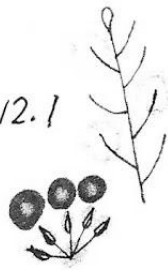


ゆりかご園だより

2020.12.1



3期(10~12月)のねらい

手を使ってつくりだす活動を中心に園生活を豊かにしよう

やなせたかしさん作の『チリンのすず』という紙芝居があります。

首に鈴をつけた子羊のチリン。ある夜、狼に襲われ羊たちはみな殺しにされてしまいました。お母さんにかばわれ難を逃

れたチリンは、その後狼に弟子入りし強くなる特訓を受けます。年月が経ちチリンと狼は暴れ者としてみなにおそれられるようになりました。

ある日、羊たちを襲おうとした時、チリンは狼を裏切り狼と単戦します。いつのまにか狼を慕うようになっていたチリンの心は狼を倒しても晴れず、羊の群れに戻ることもできなからたというお話です。

25年も前になりますがこの紙芝居を年長児に読んだ時のことを思い出しました。チリンに同情し、狼を批判する子が殆んどの中、一人の男の子が「みんなは狼をヒドイ奴だと言うけど、俺は狼もかわいそうだと思う」と言ったのです。同じ意見が多いと、なかなかな違う意見は言いにくいものです。安心して自分の意見を言える仲間関係があってこそその発言だったのでしょう。この時子どもたちは「なぜそう思うのか?」「じゃあ～はどうなのか?」といった活発な意見がとびかい、保育者の援助が必要ないほど話し合いが進みました。皆と違う意見を出してくれたからこそ、ストーリーをより深く読みとることができたと思います。話し合いが終わると、みな満足そうな表情だったことが印象的でした。一つの考之にとらわれず自分と違う意見にも耳を傾けたことで多様な価値感を矢口したのだと思います。

先日、ドッチボールのルールを守らなからたことを仲間たちに指摘された年長児が泣いているのを見かけました。皆で楽しく遊ぶためにはルールが必要で、年長児ともなると、そのあそびをもっと楽しくするためにルールを変化させたり、新たに作りだすようにもなりますがそれにはルールを守って遊ぶ経験が土台にあることと、仲間との合意が必要です。ルールを守らなからた行為を仲間たちがたしなめるのは当然です。クラスの保育士に任せその場を離れましたが皆に同調せず、何か言いたげなMちゃんの様子をみて、25年前のことを思い出したのです。

後日、家庭からのノートにこの件が記されていて、「真剣にボールをとるから線をはみ出したことに気づかずにた」「急にボールをとられて嫌だった」となど、泣いた子の思いを受けとめ、仲間たちの言い分も理解し、両者の側から解決策を考えていたことがわかりました。これからますますあそびだけでなく、長期的な取りくみの中で話し合う経験が増えます。自分と違う意見も大事にし、物事を多面的に見ながら、豊かで温かい集団になっていってほしいと思います。